


# 第2回 全国高校生英語ディベート大会実施要項

## The 2nd All Japan High School English Debate Tournament

平成19年度 文部科学省「学びンピック」認定大会 

1. 主催 高校生英語ディベート大会推進委員会 委員長 下屋浩実
2. 共催 GTEC for STUDENTS (株式会社ベネッセコーポレーション)
3. 後援 文部科学省(申請中) 全国高等学校文化連盟  
愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会 愛知県私学協会教科等研究部会英語部会  
全国教室ディベート連盟 日本ディベート協会 他
4. 日時 平成19年12月15日(土)16日(日)
5. 会場 名古屋学院大学(白鳥学舎) 〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-25
6. 協賛 カシオ計算機 学研 他
7. 参加条件
  - ・日本の高等学校在学者または高等専門学校の3年までに在学の生徒
  - ・英語のネイティブスピーカーは不可
  - ・以下の条件のものはチームに2名までで、試合への出場は1名までとする。
    - (1)英語を第1言語とする国で10ヶ月以上滞在経験のある生徒
    - (2)英語を第2言語とする国の出身である生徒
    - (3)家庭で常用的に英語を使っている生徒
8. チーム構成 1チーム登録は5名まで。試合への出場は3人~4人で試合ごとにメンバーの入れ替えは可能。
9. 対戦方法 予選4試合(予定)をパワーペアリング式(できるだけ勝数が同じチーム同士が対戦し、あたりの良し悪しの影響を減らす対戦方法)にて行う。上位チームが決勝トーナメントへ進み、優勝者を決める。(予選通過の判定基準は、勝数、得票率、平均コミュニケーション点、以上の順で決める。)
10. 論題

**All elementary and secondary schools in Japan should have classes on Saturdays.**  
「日本のすべての小・中・高等学校は、週6日制にすべきである。是か非か。」

### (付記事項)

この論題では、平日の五日間に加え、土曜日は(休暇期間を除き)原則として毎週授業を行うことの是非を論ずること(隔週に土曜を開校したり、水曜を土曜にうつすなどのプランは認められない)また全学の児童・生徒を対象にして是非を論ずること(一部の児童・生徒を対象に土曜授業を行うプランなどは認められない)

11. 日程 12/15 sat 10:00~ 受付 12/16sun 8:30~ 予選第4試合  
12:00~ 開会式 13:00~ 決勝戦  
13:00~ 予選第1試合開始 14:20~ 決勝戦表彰式・閉会式  
18:00~ 交流会(登録の選手は参加無料) 15:00~ 解散予定
12. 試合形式 Debate Format

スピーチ	時間
肯定 立論 Affirmative Constructive Speech	4分
準備時間 Preparation Time	1分
否定 質疑 Questions from the Negative	3分
否定 立論 Negative Constructive Speech	4分
準備時間 Preparation Time	1分
肯定 質疑 Questions from the Affirmative	3分
準備時間 Preparation Time	2分
否定 アタック Negative Attack	2分
肯定 質疑 Questions from the Affirmative	2分
肯定 アタック Affirmative Attack	2分
否定 質疑 Questions from the Negative	2分
準備時間 Preparation Time	2分
肯定 ディフェンス Affirmative Defense	2分
否定 ディフェンス Negative Defense	2分
準備時間 Preparation Time	2分
肯定 総括 Affirmative Summary	2分
否定 総括 Negative Summary	2分
計	38分

注) ・役割は、3人の場合と4人の場合で異なるので、裏面参照。

### 1.3. 競技規則

競技は大会規則に基づいて行うものとする。大会規則は参加希望者に追って配布する。

### 1.4. ジャッジセミナーおよび、事前講習会

ジャッジセミナーと同時に練習会を含めた事前講習会を開き、ルールの周知徹底、試合に向けての準備の方法などを確認する。

日程) 8月25日(土)、9月23日(日)、10月27日(土)、11月25日(日)の4回  
場所) 名古屋市内 (詳細は今後決定)

### 1.5. 大会参加申し込み

全体を64チーム上限で受け付ける。

応募締め切り 11月12日(月) (応募先 名古屋高等学校 李 仁成 FAX 052-721-5277)

- ・シード参加 各都道府県大会の代表を3校または3チームまで優先的に受け付ける。(代表の選定方法は、各地区の裁量で)
- ・オープン参加 シード参加以外はオープン参加とするが、64をオーバーした場合は1校1チームを基準に、地域のちらばり等を考慮に入れた上で、事務局で抽選をして決定する。1校あたり最大3チームまで申し込み可とする。

### 1.6. 参加費 1チーム8,000円。(本大会の運営費として)

### 1.7. 賞

1位から3位までに賞状、賞品。

他に、ベストディベーター賞6名。

参加者全員に記念品。

なお優勝校には、来年度アメリカ合衆国(ワシントンDC)で行われる第20回世界大会への出場権が与えられる。参加費、旅費一部支給。

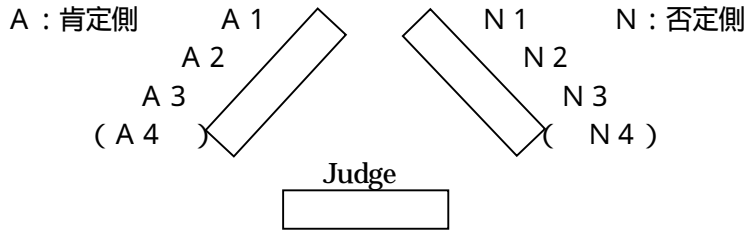
問い合わせ・連絡先

高校生英語ディベート大会推進委員会  
第2回事務局 高山西高等学校 (宮川純一)

Tel 0577-32-2590

E-mail miyagawa@takanishi.ed.jp

**発言の順番**



発 言 者		役 割 と 内 容	時 間
3人の場合	4人の場合		
A1	A 1	肯定側立論 (メリットは2点まで出せる)	4分
		準備時間	1分
N2 A 1	N4 A 1	否定側質疑 (否定側からの質問に、肯定側 A1 が答える)	3分
N1	N1	否定側立論 (デメリットは2点まで出せる)	4分
		準備時間	1分
A2 N1	A4 N1	肯定側質疑 (肯定側からの質問に、否定側 N1 が答える)	3分
		準備時間	2分
N2	N2	否定側アタック (肯定側の立論のみに対して)	2分
A3 N2	A3 N2	そのアタックへの質問 (肯定側 A3 からの質問に否定側 N2 が答える)	2分
A2	A2	肯定側アタック (否定側の立論のみに対して)	2分
N3 A2	N3 A2	そのアタックへの質問 (否定側 N3 からの質問に肯定側 A2 が答える)	2分
		準備時間	2分
A3	A3	肯定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	2分
N3	N3	否定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	2分
		準備時間	2分
A1	A4	肯定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	2分
N1	N4	否定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	2分

計38分

**ジャッジの方法 (概略)**

・ジャッジは1試合に3人。試合後内容について確認はするが、基本的には相談はせず独立して勝者を決める。(引き分けはなし) 過半数の票(2票~3票)を集めたチームが勝者。

・各ジャッジは、議論の内容を客観的に比較し、論題が肯定されたか否定されたかを合理的に判断して、試合の勝敗を判断する。

もし論題が肯定されたと判断したら、肯定チームの勝ち、そうでないなら否定チームの勝ちとする。例えばメリットがデメリットを上回ることが証明され、論題が肯定されたと判断したら、肯定に一票入れる。

(注: この大会では、スピーチをジャッジの主観で点数化するポイント合計方式や、どちらが「より上手かったか」を感覚で判定するスキル方式は採用しない)

・各ジャッジは勝敗の他に、予選順位決定に補助的に参照するため、各チームに5点満点のコミュニケーション点をつける。コミュニケーション点は、各チームが(マナーも含め)どれだけ観客・ジャッジを意識して議論できているかで採点する

### <静岡県 加藤学園暁秀高校 ウェンドフェルト延子先生>

全国大会を経験して、本校メンバーはディベートはまさに『総合頭脳チームスポーツ』だと実感しました。しかも、高校生がチャレンジするにふさわしい頭脳スポーツだと。相手の動きを読みながら戦略を立て、こぼでアタック・ディフェンスの応酬。チーム内のギクシャクも気配りとフォローで乗り越え、雰囲気作りの大切さも学びました。とにかく、手に汗にぎりました。『やっペー！脳みそが筋肉化するっ!!!』っていう子があります。その通りです。また、全国のディベート仲間との試合を通しての交流に感涙を流しました。今は、基礎トレーニング中。第1回大会優勝旗を手にして、世界大会への準備を進めている先輩の武者修行にエールを送りつつ、自分たちが日本の未来を変えている!?・・・と思うことにしています。第1回日本代表チームの世界大会での健闘をお祈りください。

### <鹿児島県 志布志高校 有嶋宏一先生>

第1回目の全国ディベート大会は、開会式からものすごい熱気と興奮で、参加した本校の生徒も「すごい!」「参加してよかった!」と最初からテンションあがりっぱなしでした。初めての試合形式と初めての全国大会。昨年度は九州大会・県大会とテーマが異なっていたために、全国大会のテーマでの練習期間は約10日間。キツキツ&鬼のトレーニングでしたが、特別賞を頂いたときには生徒の目からは涙が・・・昨年度参加した生徒の現在の英語力はディベートで培ってきたものと確信しています。語彙力、スピーキング力、etc・・・。

鹿児島でも今年は記念すべき第10回県高校英語ディベート大会が実施されます。今年も、県大会で勝ち残って、九州大会、そして全国大会で思いっきりやるぞ!と生徒と誓いながら練習する毎日です。

### <静岡県 静岡商業高校 石川智子先生>

学生時代から言語獲得や習得に興味があった。しかし、高校現場は長く「読むこと」「訳すこと」へ傾いていたことは否めない。前任の普通科では、センター試験の得点力アップに多くの精力が費やされていた。

商業高校で、TOEIC対策授業を実践し、「聴くこと」の重要性を再認識した。そしてその延長線上には「話すこと」が見えた。語学部の1年生4名の出場は無謀だったかもしれない。生徒は自分たちの考えた英文を覚えるだけでも精一杯だった。第1試合は反駁には沈黙が続いた。しかし、第2、第3試合と進むうち、生徒自らが学び始めた。その後、うち2人はカナダへの姉妹校交流にでかけ、2人はTOEIC対策授業を取っている。ほんの少しの勇気で生徒は変わるかもしれない。そんな思いを強くしている。

### <三重県 桑名西高校 弓場 周先生>

三重県高等学校英語スキットコンテスト3年連続優勝をはじめ、スピーチコンテストでもそれなりの実績を残してきた生徒たちは、それなりの自信を持ってこの大会に出場しました。しかし、そこで見たのはスピーチやスキットのコンテストとはまったく次元が違うインタラクティブな世界でした・・・。生徒たちは相当のショックを受けたようで泣いた生徒もいました。でも、大会後の反省会では「これまでの自分達はいかに『井の中の蛙』だったかがよくわかりました。」と誰もが話していました。時には無理を試みることも英語力向上のためには必要なんだということを、生徒も私もこの大会で学ばせていただきました。

## 第1回大会データ

日時 平成18年12月16日(土)17日(日) 場所 岐阜聖徳学園大学(岐阜キャンパス)

参加チーム 17都県38校 52チーム(208名)が参加。

地区大会入賞(シード)チーム 6県15チーム オープン参加チーム 11都県37チーム

論題 **Japan should make English its second official language.** 「日本は英語を公用語にすべきである。」

### 大会結果

優勝 加藤学園暁秀高校A 準優勝 神戸市立葺合高校 3位 慶應湘南藤沢高校A 上田染谷丘高校A

5位 高山西高校A 加藤学園暁秀高校B 慶應湘南藤沢高校B 伊那北高校 飛騨賞 志布志高校 美濃賞 中村高校

優勝した加藤学園暁秀Aは2007年7月韓国ソウル開催の第19回 World Schools Debate Championships に初の日本代表として参加。

ベストディベーター賞(6名; 最優秀1名、優秀5名)